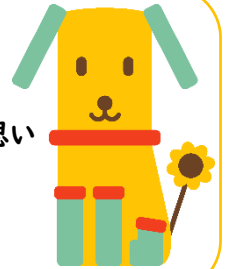


## Contents

- 研究所 TOPICS
- 主催イベントのご案内
- まちライブラリー@ブックハウスカフェにける思い
- Library Compass :  
図書館における「公平性」「多様性」「包摂」



## 研究所 TOPICS

### ■ Library Compass を Web サイトにて公開しました

本 NEWS LETTER 前号からスタートしました新企画「Library Compass」ですが、おかげさまで好評をいただいております。そこで、図書館に関わる皆さまに広くご覧いただけるよう、当研究所 Web サイトでも公開することといたしました。今後も引き続き、NEWS LETTER の発行と連動して掲載してゆく所存です。第 1 回「改正著作権法」は、以下の URL からご覧いただけます。

[http://www.miraitosyokan.jp/future\\_lib/lib\\_compass/no1/](http://www.miraitosyokan.jp/future_lib/lib_compass/no1/)

### ■ 『調査・研究レポート 2020』(Vol.4) を Web サイトにて公開しました

2021 年 3 月 30 日に発行いたしました、『未来の図書館 研究所 調査・研究レポート 2020』(Vol.4) の PDF ファイルを、当研究所 Web サイトにて公開しました。バックナンバーについても公開しておりますので、ぜひご覧ください。

[http://www.miraitosyokan.jp/future\\_lib/annual\\_report/report\\_vol4.pdf](http://www.miraitosyokan.jp/future_lib/annual_report/report_vol4.pdf)



## 主催イベントのご案内 — 参加申込受付中です!

### ■ 第 5 回ワークショップ「図書館員の未来準備」(9/27,10/4,10/8,10/11,10/15 : 5 日間 7 科目)

日進月歩を続ける「図書館情報システム」とこれからの「図書館の役割」をテーマに毎年開催しています、図書館員の皆さまのこれからのに向けた「未来準備」のワークショップです。昨年から続く新型コロナ禍のなかで、図書館の役割をいかに果たしてゆくかは大きな課題となっており、図書館においても本格的な DX(デジタルトランスフォーメーション)が求められています。今回は、いくつかの科目の追加・更新をし、講師には新たな方々に加わっていただきました。前回に引き続きオンライン開催を基本とし、全国の図書館に関わる皆さまのご参加をお待ちしております。



・詳細・お申込み URL : [https://www.miraitosyokan.jp/future\\_lib/ws/202109/](https://www.miraitosyokan.jp/future_lib/ws/202109/)

・定員 : 20 名程度 ・申込締切 : 2021 年 9 月 24 日(金) ※事前課題のある科目もございますのでお早めにお申込みください

### ■ 第 6 回シンポジウム「図書館とポスト真実」(11/8 開催)

世論が客観的な事実よりも個人的な信条や感情に左右される「ポスト真実(post-truth)」の時代において、情報を通じてコミュニティを支える図書館の役割が改めて問われるところです。そこで、信頼度の高いメディア「新聞」に携わり、記者歴 30 余年の伊藤智永氏と、フェイクニュース現象の仕組みを科学的に追究されている笹原和俊氏をお迎えし、ネット社会において図書館はどのようにあったらよいかを考えてゆきたいと思っております。

・詳細・お申込み URL : [https://www.miraitosyokan.jp/future\\_lib/symposium/6th/](https://www.miraitosyokan.jp/future_lib/symposium/6th/)

・定員・申込締切 : Zoom は定員 50 名・2021 年 11 月 5 日(金)

※YouTube は定員なし・当日 10 時まで受付



この図は「Wikimedia Commons」の「File:Cognitive bias codex en.svg」(design: John Manoogian III categories and descriptions: Buster Benson implementation: TilmannR, クリエイティブ・コモンズ・ライセンス (CC BY-SA 4.0 <<https://creativecommons.org/licenses/by-sa/4.0/>>)) を加工して作成しました (図の出典 : [https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Cognitive\\_bias\\_codex\\_en.svg](https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Cognitive_bias_codex_en.svg))

## まちライブラリー@ブックハウスカフェにける思い

今回は、第1回ワークショップ「図書館員の未来準備」を受講された橋爪 千代子さんにご寄稿いただきました。橋爪さんは、ワークショップ受講当時は公共図書館に勤務されていましたが、現在は「まちライブラリー@ブックハウスカフェ」主宰者として活動されています。公的な立場と私的な立場の双方で図書館活動に関わってこられた橋爪さんの経験は、これからの図書館を考えてゆく上で得るところが多いと感じます。

### ■まちライブラリー@ブックハウスカフェにける思い

はしづめ ちよこ  
橋爪 千代子

私が、東京神田神保町の児童書店ブックハウスカフェに、まちライブラリー@ブックハウスカフェをネット上で開設準備を始めたのは、2020年4月です。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、世界中でステイホームが叫ばれていた真最中です。ちなみに、まちライブラリーとは私にとって、本を通じて人をつなぐ営みという位置づけです。こうした試みは、国内だけではなく、世界中にあります。気に入った本にもっと旅をさせ、人々もつながろうという活動が行われています。

実は、私のまちライブラリーの開設は2回目、1回目は自宅近くの小さなカフェに設置した2016年9月のことでした。が、残念ながらカフェの都合で翌年3月には早くも閉鎖せざるを得なくなりました。閉鎖はしましたが、その間に何か所ものまちライブラリーを訪ね、まちライブラリーの魅力を十分に感じていたので、いつかまたどこかで開設したいという気持ちをもっていました。

2017年に、当時、勤務していた都内の公共図書館の一角の広い和室に、まちライブラリーを開設できないものかと担当部署に提案してみました。他の地域の公共図書館内でまちライブラリーが設置され、「感想カード」(その本を読んだ人が感想をリレーのように記入していく)や、まちライブラリーイベントを通じて、より本に親しみやすくなるという効果を生んでいることを聞いていたので、多くの方々に気軽に図書館を利用しただく手がかりになるかと考えたのです。しかし、残念ながら承認は得られず、その図書館でのまちライブラリー活動は断念しました。

その後、2019年3月と5月に2回、個人的にヨーロッパ旅行をする機会がありまして、フランス、イギリス、チェコに行き、観光がてら計13館の公共図書館や数々の書店を見学してまいりました。この経験が、私にとって大きな刺激となりました。日欧の公共図書館の違いを如実に感じたからです。ヨーロッパの公共図書館は、人々の自発的な行動を取り込んで、日本の図書館より柔軟に運営している印象を受けました。禁止事項のはり紙はなく、棚や本の並べ方がわかりやすく、小さい子どもたちに対する優しい配慮など、インテリアは寛げるように工夫されていました。

そしてヨーロッパ旅行の1年後の2020年3月、公共図書館勤務を終えることにしました。勤務した図書館では、有益かつ最新の研修を数多く受けることができ、また人的な雰囲気も大変よく、その意味ではとても恵まれた環境でした。が、制度の枠をはなれて、本を軸とした文化活動をやりたいという気持ちが強まったのです。5自治体9館で勤務した十数年の司書生活でした。決して長い期間ではないと思いますが、自治体が直営する館、業務委託の館、PFI・指定管理者の館など多様な経営のもとで勤務し、大変貴重な経験でした。

さらに今後のキャリアを考え、ヨーロッパの図書館や書店など、本と共に人々が心豊かに生きている文化の場を見学したく、2020年初めに渡欧準備をしていました。特に楽しみにしていたのは、毎年春にポロニーヤで開催される子どもの本のイベントであるブックフェアに参加することでした。

が、その時期、世界中で新型コロナウイルスの感染拡大発生。残念ながら渡欧は断念となりました。

そして2020年3月には、学校が急遽休校となり、公共図書館は閉館あるいは利用の制限が行われ、また書店も休業や時間短縮営業となりました。つまり、本と出会う機会をもてなくなる状況になってしまいました。

そこで、今こそ、これまで考えてきたことを実現してみようと思い立ちました。

なんの具体的計画はありませんでしたが、ただまちライブラリーのカタチならば、私の個人の小さな力でも、ステイホームしたままでも、司書として働いていた経験や人脈を生かしてできるのではないかと、ちょっぴり社会に寄与できるのではないかと考えたのです。

腹案は、神保町のブックハウスカフェに作ろうというものでした。ブックハウスカフェは、大規模の児童書店で、店内にカフェ、バーもあり、1階と2階にイベント可能なスペースがあります。ふだんから私もよく利用していた親しみのあるお店で、そこでオーナーである今本義子氏に、まちライブラリー開設のお願いをしたところ、即答でOKの返事をいただきました。ブックハウスカフェも、都の休業要請に応じて、店を閉じていた時期でした。

まちライブラリー@ブックハウスカフェとして、最初に取り組んだのは、2020年6月から7月にかけて行ったチャリティーです。子どもたちが魅力的な本と出会う機会をつくるために、ブックハウスカフェで扱っている本を、ご賛同のお客様に店頭またはオンラインで購入していただき、その本を子どもに本を届ける活動をしている三団体(北海道江別市の北海道ブックシェアリング・千葉県四街道市の蔵の図書館・愛媛県伊予市のいよ本プロジェクト)に送付するという活動です。おかげさまで、期間中175冊を寄贈用にご購入いただき、上記三団体に送付することができました。

コロナ禍により売上げが厳しくなっていた書店から子どもたちに本を届ける活動をされている団体に寄贈できたことは、大きな喜びでした。寄贈していただいた数多くの見知らぬ方々、様々な作業を手伝ってくれた友人知人たちに本当に感謝です。





ブックハウスカフェには、私たちのまちライブラリー専用本棚があります。

大半のまちライブラリーは、本の貸し出しをしています。ブックハウスカフェのまちライブラリーの場合は、閲覧のみにしています。その棚にある本を気に入り、店舗で見つけて買ってくださいという方もいらっしゃいます。活動協力者の方が、絵本のPOPや季節に合わせたグッズを作って棚を飾ってくださったり、作家や出版社、個人の方が、本を寄贈して下さったりすることもあります。まちライブラリーに関するパンフレット、イベントのチラシを置いており、活動の拠点もしくはシンボルのような棚となっています。イベント実施の場合は、その内容に応じて、1階手前の書店及びカフェスペース、1階奥のガリパールーム(常に作家作品が展示されているスペースで飲食可)、2階のひふみ座(数十名収容可能)のどれかを借りて実施しています。



幸いなことにブックハウスカフェは、店舗が二つの通りに挟まれており、その通りに面して大きなドアと窓があることにより風通しがよく、感染予防のためには良い条件が揃っていましたので、いろいろなイベントを企画できました。もちろん人が密にならないように定員を通常の半分以下に設定し、オンライン参加者も募ってのハイブリット形式にしました。

これまで手掛けた主なイベントとしては、ブックハウスカフェの神保町界隈をとりあげ、世界最大の古書店街散歩と本に関する講演会を組み合わせた「神保町散歩」、九段の昭和館認定の次世代の語り部による戦争の話と絵本作家の講演などを組み合わせた「平和絵本イベント」、下駄や手ぬぐいなどを扱っている老舗「大和屋履物店」見学後、和服と絵本に詳しい講師に和の楽しみ方を教えていただく「和服遊び」、気軽に絵本を紹介し合う「絵本お茶会」です。どれも人気が出て、複数回開催する定番イベントとなりました。

また絵本や子どもたちをテーマに、2021年7月には、写真家の星野道夫について、濁川孝志先生(立教大学名誉教授)に「星野道夫 未来の羅針盤」というテーマで講演をしていただき、2021年8月には、養護学校教員をなさっていたことのある作家の山元加津子先生に「養護学校の子もたち そして新しい図書館づくり」というテーマで、ご自宅のある石川県小松市からオンラインでお話していただきました。この二つの講演会時には、プロのライアー奏者の方が講演内容にふさわしい曲を演奏して下さり、場の雰囲気があたたかなものとなりました。

また、ブックハウスカフェと同じ千代田区にある公共図書館が、子ども向けイベントを店内の会場を借りて行う時は、地域のまちライブラリーとしてお手伝いをしています。私的なライブラリー活動が地域の公共施設と連携できることを面白く感じています。

まちライブラリー@ブックハウスカフェの場合は、所属は私ひとりだけで、固定メンバーによる組織化した活動ではないため、関心のある方はどなたでも、どのような形でも関わられます。前述したように次々と協力者があられることに驚き、そして感謝しています。大きなビジョンをたてての先々までも通した計画などはなく、いつも私や支えてくれる方々の希望やアイデアで、新しい企画が立ち上がります。それを今本義子店主、茅野由紀店長、協力者の方々と相談しながら具体化し、実施しています。

このまちライブラリー@ブックハウスカフェはビジネスの場ではないので、活動による謝礼などが無いことは最初からお伝えしています。運営費用は、個人的に負担できる範囲内です。参加費など運営によって出る収益は、お店の経営支援にあてています。このお店の元気な存続が、まちライブラリー@ブックハウスカフェに関わっている私たちの願いであり、喜びであるからです。



成果といえるかどうかわかりませんが、イベントで人が集ったことによって、それはオンラインの場合でも同様ですが、人と本、人と人が出会い、文化交流の場が生まれ、ごくささやかですがお役にたてたと感じています。

コロナ禍で社会に閉塞感のある今だからこそ、こうした場がより重要となっていると感じています。人と人が手を繋げば、活動の継続は可能であり、発展もすると信じています。元公共図書館司書として、まちライブラリーという私的な活動が公共図書館などの公的活動と共存し、両者の違いをうまく生かし合い補い合いながら、多くの方のウェルビーイング(幸福)に寄与していくことを切に願っています。

魂神純史氏(まちライブラリー観音寺)と行く

### 神保町散歩

一般書下読みは、魂神純史氏の講演会「日本と世界の本の街」

ブックハウスカフェ 今春親子読書も開催!

日時: 2021年1月25日(月)

神保町散歩 13時~

(ブックハウスカフェをスタートして約80分)

魂神純史氏講演 14時開演~15時

(ブックハウスカフェ店内にて約1時間)

参加費: 2000円 定員: 8名

※参加者には、カフェ500円券プレゼント!

※お申し込みは、QRコードまたはURLにてお申し込みください。お申し込みは、ブックハウスカフェまでお電話ください。お申し込み受付期間: 1月15日(日)まで

まちライブラリー@ブックハウスカフェ@ブックハウスカフェ共同



まちライブラリー@ブックハウスカフェ@ブックハウスカフェ共同

### 平和絵本イベント

絵本作家の講演会と読み聞かせ

日時: 2021年10月31日(土)

15時~17時

会場: ブックハウスカフェ(上野原駅前)

参加費: 無料(お茶代別途)

定員: 20名

※お申し込みは、QRコードまたはURLにてお申し込みください。お申し込みは、ブックハウスカフェまでお電話ください。お申し込み受付期間: 10月25日(日)まで

魂神純史氏(まちライブラリー観音寺)と行く

### 和服遊び

和服作家の講演会と和服体験

日時: 2021年8月5日(木) 15時~17時

会場: ブックハウスカフェ(上野原駅前)

参加費: 2000円(お茶代別途)

定員: 20名

※お申し込みは、QRコードまたはURLにてお申し込みください。お申し込みは、ブックハウスカフェまでお電話ください。お申し込み受付期間: 7月25日(日)まで



魂神純史氏(まちライブラリー観音寺)と行く

### 絵本お茶会

絵本作家の講演会と読み聞かせ

日時: 2021年8月5日(木) 15時~17時

会場: ブックハウスカフェ(上野原駅前)

参加費: 2000円(お茶代別途)

定員: 20名

※お申し込みは、QRコードまたはURLにてお申し込みください。お申し込みは、ブックハウスカフェまでお電話ください。お申し込み受付期間: 7月25日(日)まで

WEB サイト参照リスト

1. まちライブラリー <https://machi-library.org/>
2. まちライブラリー@ブックハウスカフェ「本を届けるチャリティー企画」 [https://peraichi.com/landing\\_pages/view/bch-charity/](https://peraichi.com/landing_pages/view/bch-charity/)
3. まちライブラリー@ブックハウスカフェ Facebook ページ <https://www.facebook.com/104410621446777/>
4. こどもの本専門店&カフェ Book House Cafe <https://bookhousecafe.jp/>

## ■ブラック・ライブズ・マター (Black Lives Matter)

2020年のテニス全米オープンで、大坂なおみは名前を記したマスクをして試合に現れた。彼女は決勝まで勝ち続け、7人の名前を掲げた。白人警察官の過剰な暴力などにより死亡した黒人たちの名前だ。全米に広がった Black Lives Matter (黒人の生命を粗末にするな) 運動に連帯した行動である。アメリカでは1960年代に人種差別を禁止した公民権法が成立し、教育や雇用などの分野で積極的差別解消措置(アファーマティブ・アクション)がとられた。しかし、その大学入学枠が白人差別だと訴えたバッキ裁判などによる揺り戻しや不法移民問題などによって、人種や文化の違いによる構造的な差別は解消しなかった。黒人と白人の両親をもつオバマ大統領の誕生もあったが、トランプ大統領の登場や COVID-19 パンデミックの発生により、社会の分断が深化したともいわれる。

米国図書館協会(ALA)や各図書館も Black Lives Matter とそれに関連する問題をとりあげている。ウェブサイトの人種差別に反対する声明を掲載したり、人種に対する公平性を推進する取組を表明している図書館は多く見られる。

## ■公平性(Equity)、多様性(Diversity)、包摂(Inclusion)

そのようななか、ALAは今年2021年6月29日の年次大会で、「図書館員の倫理綱領」のこれまでの8原則(知的自由の原則、利用者の権利やプライバシーの保護、知的財産権の尊重など)に、人種的・社会的正義に対処する、次の原則を9つ目に追加する改訂を承認した。

「わたしたちは、それぞれの人が持つ尊厳と権利を擁護する。制度的並びに個人的な先入観を認識し取り除くように取り組む。すなわち、不公平や抑圧に立ち向かい、多様性と包摂を増進し、図書館の行う啓発、アドボカシー、教育、連携、提供するサービスそして資源やスペースの提供を通じて、われわれの図書館、コミュニティ、職場、そして団体において、人種的・社会的正義を前進させる。」(仮訳)

また、同じくALAの「図書館員のコア・コンピテンス」でも、これまでのもの(専門職の基盤、技術的知識とスキルなど)に「社会正義」「公平性」「多様性」「包摂」を組み込んだ草案が公開された。図書館員のコピテンスとして、人々が図書館を利用するのに公平なアクセスと参加が確保できるよう、図書館のコレクション、サービス、プログラムなどを創造し、サポートする力量が追加されている。

「公平性」(「公正」と訳されることもある)は「多様性」と「包摂」に比べると、日本ではあまりなじみのない概念かもしれない。ALAの用語解説によれば、「公平性」は形式的平等ではない。差異を考慮した公正なプロセスで最終的に公平な結果を確保する。一部のグループが教育や雇用の機会にアクセスする際に不利な立場にあり、多くの組織や機関から

除外されている。したがって、公平性とは、不利な立場にあるグループの状況を改善することであり、またそれによって得られる社会の多様性の確保を意味する。

なお歴史的には、米国では1960年代以降、黒人市民権運動などの社会的背景のもと、社会的に不利益をこうむっている人々の多くが、そのまま図書館の未利用者であるという事実が図書館の側の責任として問題にされ、未利用者を利用者へ転化していくアウトリーチ・プログラムの概念と実践活動が発達したという経緯があった。「不利益をこうむっている人々」の「発見」はその後のアメリカの公共図書館思想に大きな影響を与えているようだ。

## ■日本における状況

日本の図書館において、サービス対象として在住外国人などマイノリティ住民を考慮したサービスが明確に意識され、各地で取組みが開始されたのは1980年代以降である。1986年に東京で開催されたIFLA大会で、この種のサービスの不足が指摘され、サービス発展を促す決議が行われたことが大きな契機だった。

「多文化サービス実態調査 2015 報告書」によると、外国語図書の収集・提供は、都道府県と東京23区のすべて、全体でも90.2%の図書館で実施され増加傾向にある。しかし、「地域の外国人ニーズが不明」「サービスエリアに外国人コミュニティがあるか否か」の質問にわからないと回答した図書館も相当数あり、多様な文化的・言語的背景を持つ職員の配置は3.6%にとどまっている。

日本の在留外国人の人口は、1990年の出入国管理及び難民認定法の改正を経て、急速に拡大してきた。昨年来のパンデミックの影響で、8年振りに減少したものの、2020年末現在でも約288万6千人、30年前の2.7倍である。今後、少子高齢化による労働人口の減少が続くなか、社会の活力を維持するには、外国からの人材の受け入れは不可欠であろう。図書館サービスもそのような変化をきちんと捉えていかねばならないだろう。そして、現在問われているのは、単に量的な拡大ではなく、公平性を通じた、つまり実質的に差別を克服し、多様性や包摂の実現をめざすかたちである。

実は公平性や多様性、包摂を確保しなければならない領域は、人種や言語・文化などの差異だけでなく、ジェンダーの問題があるし、障害者支援、そして今ではデジタル社会のもたらした人々間の Digital Equity (デジタル公平性)確保も視野に入れなければならないだろう。すべての人々が支え合う社会を構築するために、図書館の、さまざまな「公平性」「多様性」「包摂」の取組みと積極的なアクションが必要になっている。

(磯部 ゆき江)

### <参考資料>

1. American Library Association. Professional Ethics. "<https://www.ala.org/tools/ethics>", (参照 2021-08-26).
2. American Library Association. 2021 Update to ALA's Core Competencies of Librarianship. "<https://www.ala.org/educationcareers/2021-update-alas-core-competencies-librarianship>", (参照 2021-08-26).
3. American Library Association. ODLOS Glossary of Terms. "<https://www.ala.org/aboutala/odlos-glossary-terms>", (参照 2021-08-26).
4. 南川文里『未完の多文化主義:アメリカにおける人種、国家、多様性』東大出版会, 2021.
5. 永田治樹『図書館制度・経営論』日本図書館協会, 2016.
6. 日本図書館協会多文化サービス委員会『多文化サービス実態調査 2015 報告書』日本図書館協会, 2017.

## 発行

編集・発行:株式会社 未来の図書館 研究所

〒113-0033 東京都文京区本郷 4-9-25 2階

✉ info@miraitosyokan.jp ☎ 03-6673-7287 FAX 03-6772-4395

URL: <http://www.miraitosyokan.jp>  <https://www.facebook.com/miraitosyokan/>

図書館づくりのご相談、原稿執筆、講師依頼等、その他お気軽にご連絡ください。

これまでの実績について、「当研究所員が携わった仕事(2021.3現在)のご紹介」をWebサイトに掲載しています。

